

## 第5回 日田スギデザイン会議 報告書

日時 平成28年2月26日(金) 19:00~21:00

場所 パトリア日田 市民活動室(ポポロ)

第5回の会議ではシンフロ等のPVで音楽監督をした清川進也氏(有限会社インビジブル・デザインズ・ラボ)を招いて、PVの制作に向けてのアドバイス等をいただき、PV作成の検討をおこなった。

### ○シンフロの制作について

- ・企画そのものも奇抜であったが、作品中の音は県内の音(豊後牛の鳴き声、稲刈り等、日田市を含む県内数箇所)のみで構成させている。
- ・広告作品として「大分には温泉があるぞ」ということがシンプルに表現されている。
- ・県の要望としては県のPRしたいモノは温泉以外にもあるので作中に出してほしいとのことだったが、温泉でシンクロという企画をブレずに、音として県内をPRすることで県全体のPRとした。(本編のPVとは別に音のメイキング映像も公開している)

### <清川氏のアドバイス等>

#### ○ご当地PVについて

- ・現在は地方創生もあって各地で類似のPV映像は作成されている。
- ・ご当地PVには「話題にならないもの」と「話題になるもの」がある。これまで制作されたPVの多くが前者。両者ともそこに住まう人の想いをカタチにしたいという気持ちは伝わるが、前者は説明的であるものが多い。地元の人たちが見れば感動的なものになっているが、他人が見ても二度目を見ようとは思わずに、話題にもならない。また作品を完成させるところがゴールとなっている。逆に後者はエンターテイメント性を有し、インパクトのあるものとなっている。作品を見て、他人にも見せたいと思わせることで話題になる。
- ・はじめから海外の広告祭を目的に制作し、実際に出展して、現地でワークショップをして海外販路の開拓に成功した事例もある。

#### ○日田市のPV制作について

- ・今だからこそシンフロと関係性があってもよい。ロゴも足の部分を杉に変えたり、森林浴でシンフロを表現してもよいと思う。
- ・産業、技術、製品、観光など何をもっともPRしたいか、具体的な目的から逆算したほうがよい。
- ・完成させた後にどう拡散させるか、どこで流すか、媒体はどうするかも考える必要

がある。(ex.ツボ押しのような商品はタクシー運転手向けにラジオ)

- 地元の人々が協力してみんなで作成し、完成させることができるかが大事。
- 観光、産業、歴史、技術などPRしたい内容は多いと思うが一つに絞るほうがよい。
- 全てを説明せずに、視聴者が何を伝えたかったのか考え、答えを導き出せる程度の余白は残しておくほうがよい。
- PVの長さは1分半から2分半がベスト。3分を超えると厳しい。
- ガイドブックにあるような表層の情報だけでなく、深層にあるものをどれだけ映像として切り取れるかが大事。

#### <会の中で出た意見>

- 自分たちの想いや情報をきちんと提供し、プロの手によって昇華してもらいたい。
- 制作する作品は林業に特化した映像作品とする。  
(清川氏) 見せ方としては、人々の生活を支え、木の移送に使われていた経緯のある三隈川などを活用して、木をまったく見せない手法も考えられる。
- 林業といっても川上から川下まであり、個々で一番伝えたいものはズレが生じる。
- インパクトのある作品を作り、説明となるサブのメイキング映像があるほうがよい。  
(清川氏) 林業と町との関係性まで作品中で描けると作品のクオリティはあがる。
- 森の音だけで作品を作るとした場合に日田らしさも取り入れたい。
- 日ごろスポットの当たらない人に少しでもスポットが当たってほしい。
- 予算のかかるものなので半端な作品は作りたくない。協力してもらえる人たちには協力してもらって、きちんとした作品を作りたい。
- PVが仮にできたとして、PVのイメージが先行しないようにきちんと体制等の整備も併せて必要。
- 県や市など行政の予算を期待するのではなく、予算は自分たちで色々な工面を考えたい。

次回の会議では今回のアドバイスを踏まえ、具体的なイメージや伝えたいものを出し合って整理する。それらを集約してコアとなる部分をつめていく。併せて金銭面をどう工面していくかも検討課題とする。

#### 次回会議 (予定)

第6回日田スギデザイン会議

日時：平成28年3月29日(火) 19時～

場所：パトリア日田 2階 市民活動推進室 (ポポロ)